

さとう ゆみ

きらめく未来づくり通信

2017年1月 NO. 28 ~12月議会報告~

〒480-1157長久手市桜作708

TEL & FAX/0561-76-7811

携帯/090-5863-9971

E-mail/info@satoyumi.net

☆さとうゆみ議会報告会☆

2/18(土)14時~16時

長久手交流プラザ1階



相次ぐ市役所ミスの再発防止策は？

長久手市役所では、組織としてのチェック機能が働いていないために起きたミスが、さまざまな部署で続いています。以下はすべて平成28年に明るみになった市役所のミスです。私さとうゆみは、今議会の一般質問でミスが起きた要因と再発防止策を問いました。

市役所のミス その1

Qさとう 「平成28年度長久手市公園西駅周辺土地区画整理事業特別会計予算書」にゼロ桁間違っていた項目(人件費の退職手当組合負担金270万円を2,700万円としていた)があり、議会が開会する直前に差し替えたが、ミスが起きた要因と再発防止策はどのようなか。



A総務部長 事業担当課と予算を統括する財政課など、関係各課の情報共有と確実なチェック体制がとれていなかったことが原因である。再発防止策としては、文書の配布前等に必ず複数の担当者による確認を徹底することとする。

市役所のミス その2

Qさとう 市職員が昨年度1年間の市の事業を検証した「平成27年度事業の行政評価(内部評価)」について、7つの部のうち6つの部で事業費や評価に間違いがあり、学識経験者等の外部委員の評価を受ける直前に49枚も差し替えたが、ミスが起きた要因と再発防止策はどのようなか。

A総務部長 行政評価が例年行われることから一連の作業になってしまい、十分なチェック機能が働かなくなってしまっていたことは反省点と考えている。今後は、行政評価という業務の重要性を意識し、複数の職員による確認等を徹底し再発防止に努める。

市役所のミス その3

Qさとう 長久手市監査委員事務局は、すでに退任した代表監査委員の名前を記載して毎月行う監査の結果である「例月出納検査の報告書」を議員に配布し、議会が開会する直前に差し替えたが、ミスが起きた要因と再発防止策はどのようなか。

A総務部長 効率よく事務を進めるため、過去の報告書類のデータに上書きをして文書を作成したが、確認が行き届かず、不注意で6月に代表監査委員が交代したにもかかわらず修正できていなかった。現在は浄書、校合を徹底し再発防止に努めている。

市役所のミス その4



Qさとう 市が60%出資する第三セクター(株)長久手温泉の平成27年度決算について、市出資金6,000万円のところを6億円と記載して市は公開していたが、ミスが起きた要因と再発防止策はどのようなか。

A総務部長 (株)長久手温泉の経営状況報告に係る「第三セクターの情報公開」を市において作成する際、出資金額の桁数を誤って記載し、(株)長久手温泉から提出された資料との確認作業が不十分であったことにより生じた。再発防止策は、文書の配布前には、必ず複数の担当者による確認を徹底することとした。

市役所のミス その5



Qさとう 杵ヶ池体育館の公用車は、しばらくするとハザードランプが点灯しなくなる不具合があることを発見して

見していながら使用が続けられていた。公用車の管理が徹底されていなかった要因と再発防止策はどのようなか。

A総務部長 法定点検は実施していたが、初めて不具合を確認した後、直ちに修理を行わなかったことが要因である。再発防止策としては、公用車の軽微な不良であってもすぐに上司に報告し、迅速な修理等の対応を徹底した。

市役所では、ここに記載していないものも含めてミスが多発しています。人間は誰でも間違えることがありますが、組織としていくつものミスに気がつかない緩んだ体制は、市民のためにも市役所の職員のためにもなりません。ミスを修正するために職員の残業代や刷り直す用紙代、郵送料などが余分に発生しています。

緩んだ体制は日々の仕事にも進め方にも影響します。2年前の12月には市役所庁舎内の5つの部署から現金とキャッシュカードが盗まれ104万円の被害(職員個人のお金と課積立金で公金ではない)に遭うといった未解決の事件も起きています。市長は統率力を高め、職員全体が気を引き締めて仕事に取り組むよう体制の強化を求めます。

☆さとうゆみプロフィール☆

1978年名古屋市名東区生まれ、2000年南山大学文学部卒業、損害保険会社に勤務、2011年市民活動を経て33才で長久手町議会議員に初当選、2015年2期目当選(現在、教育福祉委員会委員長、議会だより編集特別委員会委員長)

家族…夫、息子(中学2年生)、娘(小学2年生)

支援が必要な子どものスムーズな就学に向け 福祉と教育の連携強化を

Qさとう 「5才児すこやか発達相談」は、保護者が60項目の質問に答える形で実施されている。平成27年度に232人が市の設定した一定の点数を超えていたが、「相談したい」と回答した18人にしか市から連絡をしていないのは不十分ではないか。

A福祉部長 他にも、3才児健診で要観察になった人への個別相談や園訪問による行動観察などを行っている。今後、より良い方法を検討したい。

Qさとう 臨床心理士と保健師が市内の保育園への訪問を始めたが、年中児のみの巡回である。スムーズな就学には年長児、そして小学校入学後の巡回、支援もすべきではないか。

A福祉部長 園との連携が図れるようになってきたので、一歩前進と考えている。その他関係機関との連携の仕組みづくりを検討していく。

カラスによるごみ散乱の対策を

Qさとう 学生や単身者の住むマンション等で、回収日でない日に出す、分別をしないなどのルールを守らないごみの出し方が多いので、ごみ出しルールの啓発を強化できないか。

Aくらし文化部長 散乱があった場合は、その都度マンション等の管理会社へ連絡している。また、学生や単身者の目に留まる啓発チラシの作成を検討している。

Qさとう 黄色の特殊塗料のごみ袋は、カラスから中身が見えにくいとされる。実証実験を行ってはどうか。

Aくらし文化部長 各自治体で実証実験が行われているが、はっきりとした効果が得られていないのが現状である。効果的な先進地の取り組みを調査研究する。

残念！「安全保障関連法の廃止を求める意見書を国へ提出することを求める請願」不採択に

今議会に市民から出された「安全保障関連法の廃止を求める意見書を長久手市議会から国へ提出することを求める請願」は賛成議員6人、反対議員11人で残念ながら不採択となりました。私さとうゆみは、以下の問題点から国へ意見書を提出したいと考えましたが、叶いませんでした。

【問題点】

○歴代政府は「憲法9条のもとでは集団的自衛権は行使できない」としてきたが、安倍内閣は憲法の解釈を変え、集団的自衛権を行使できるように閣議決定した。

○参議院平和安全法制特別委員会の会議録は、「発言する者多く、議場騒然、聴取不能」とだけ記述され、委員長による可決の宣言は明記されなかったが、与党側の判断で未定稿に「可決」が追記され、公式記録に残ることになった。

○衆議院憲法審査会に招かれた憲法学者3人が3人とも「集団的自衛権の行使が許される法案」を憲法違反と指摘したが、強行採決が行われた。

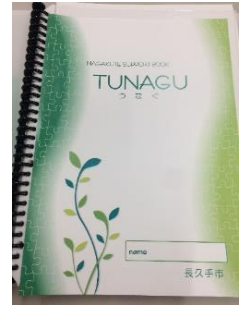
この通信の発行には一部政務活動費を使用しています(政務活動費は月1万円)

《さとうゆみ 12月議会一般質問から》

～さとうゆみの考え～

私は過去の議会で、発達障がいの早期発見、早期支援を目的に「5才児健診」の導入を提案し、実現しました。保護者が成長の記録を書きとめ、支援者と共通理解を図る目的の「サポートブックつなぐ」も作成されました。これまでなかったものが導入されたことは前進ですが、目的を果たせるよう十分に機能していない状況があります。

特に本市では、小学校入学前までの福祉部局の対応と入学後の教育部局の対応との連携強化が必要だと考えます。切れ目のない支援をしている市町村では、0才から18才まで関係機関と連携し、子どもが環境に順応できるようにしています。さらなる充実に向け、はたらきかけていきます。



～さとうゆみの考え～

カラスによるごみ散乱は、市内全域で市民が抱える問題です。散乱を防ぐためには、ひとりひとりがルールを守ってゴミを出すよう、市として周知を徹底することが必要です。

カラスの胃の中の3分の2は人間が出したごみで占められているとも言われています。食べ残しを減らし、市から補助金を受けられる生ごみ処理機でたい肥化するなど、カラスのエサとなるものを出さないことも効果的です。黄色のごみ袋の実証実験を行うことは、市民が日々のごみ出しに目を向ける機会になるのではないのでしょうか。



○11の法案のうち、10の法案を一本にまとめ、1国会のみの短時間審議で可決、成立させた。

○南スーダンPKO(国連平和維持活動)に派遣されている陸上自衛隊員部隊には、安全保障関連法に基づき「駆け付け警護」「宿営地の共同防護」の新任務が加わり、自衛隊員の生命が危険にさらされている。

【請願の採択に賛成の議員】 林みすず、大島令子、上田大、さとうゆみ、じんの和子、田崎あきひさ

【請願の採択に反対の議員】 青山直道、岡崎つよし、山田かずひこ、川合保生、加藤和男、木村さゆり、ささせ順子、佐野尚人、山田けんたろう、なかじま和代、吉田ひでき(敬称略)

さとうゆみは、どの政党にも属さず
市民の立場で発言します！

